



Much Better Than This, Times Square Midnight Moment, New York, 2015 Photography by Michael Wells

開催決定！！
ラファエル・ローゼンダール
GENEROCITY
寛容さの美学

2018年2月10日(土)-5月20日(日)

インターネット・アートの代表的存在
ラファエル・ローゼンダールの世界初となる美術館での個展

ラファエル・ローゼンダールは、インターネット空間を発想と表現の場とするアーティストです。カラフルで美しく、かつ思索的であるウェブサイト作品が集められた彼のホームページは、年間6000万のアクセス数を誇ります。一方、インターネット空間以外でも、インスタレーション展示や、タペストリー、ドローイング、レンチキュラーによる絵画作品、そして俳句という言葉の芸術、BYOBという誰もが参加できるイベントまで、さまざまな方法でその世界観を表現してきました。本展は、”アートによる「新たな体験」を提供し、未来の創造への橋渡しをする”というヴィジョンに沿って活動を続けてきた十和田市現代美術館による、ローゼンダールの世界初となる美術館での個展です。3つの企画展示室を使い、彼の独創的な芸術世界を紹介しながら、現代のメディアがインスパイアする創造性を示唆するものです。

Rafaël Rozendaal (ラファエル・ローゼンダール)

1980年オランダ生まれ/米国在住。インターネット・アートの代表的存在。シンプルな造形と動き、象徴的な色彩、遊び心に満ちたプログラム映像とインタラクティブなウェブ上で発表し、それらを用いたインスタレーションや、絵画、タペストリー作品などを現実の展示空間でも展開してきた。ヴェネツィア・ビエンナーレをはじめとする世界的な国際展への出品、またポンピドゥーセンター(パリ)、ステデリック・ミュージアム(アムステルダム)等、著名な美術館での展示会多数。中でも、2015年のニューヨーク、タイムズ・スクエアの電光掲示板を使ったインスタレーションは特に有名。日本との関わりも深く、2009年にAITレジデンスプログラム参加を皮切りに、Takuro Someya Contemporary Artでの個展(2010、2016、2017)、カルバン・クラインとのコラボレーションイベント(2012)、「セカイがハンテンし、テイク」(川崎市市民ミュージアム、2013)、茨城県北芸術祭(2016)で作品を発表。彼の俳句作品は2013年の展示をきっかけに始められた。



Photography by Christina Latina

キュレーター：金澤 韻(かなざわこだま、インディペンデント・キュレーター)

東京芸術大学大学院美術研究科、英国王立芸術大学院大学現代美術キュレーティングコース修了。熊本市現代美術館、川崎市市民ミュージアムでの勤務を得て、2013年からインディペンデント・キュレーター。2013年に初めてローゼンダールを日本の公立美術館での展示に招く。またキュレーターを務めた2016年の茨城県北芸術祭でもローゼンダールを招聘し、日産の電気自動車とのコラボレーションによって、彼の映像を街中に持ち出す大規模な二日間のイベントを実現した。2017年にオランダの出版社Valizから出版される<Rafaël Rozendaal: Everything, Always, Everywhere>にも、ローゼンダールと日本文化の関係について執筆した。

※日程、展示内容等詳細は、後日ご案内させていただきます。

問い合わせ 十和田市現代美術館 大谷、見留
〒034-0082 青森県十和田市西二番町10-9 www.towadaartcenter.com
Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 E-mail. press@towadaartcenter.com

